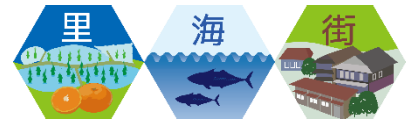


前羽地区



【地区の自然環境概要】

前羽地区は、里、海及び街の要素を持つ地区です。

北西部はミカン畑などの果樹園が広がり、丘陵地等の里地里山環境を好む動植物の生育・生息の場となっています。

南側で約 1.5km にわたり相模湾に面する海岸は、一部、半自然の砂浜海岸が残っており、海浜を好む動植物の生育・生息の場となっています。また、広大な海は魚類等の動植物の生育・生息の場となっています。

海沿いには住宅地が広がり、北東側は広範囲が事業地となっており、市街地や住宅地を好む動植物の生育・生息の場となっています。



【地区で見られる動植物】

市街地を主体としながらも樹林環境や里地里山環境もあり、このような環境を利用する動植物の生育・生息の場となっています。特に、常緑広葉樹林が残存する環境は動植物の生育・生息の場としても貴重であり、大切に守っていききたい環境です。

- ツバメやスズメ等の鳥類など市街地から里地里山でよく見られる身近な種が確認されています。¹
- 「**近戸神社**」は社寺林が広がる樹林環境であり、スダジイやヤブニッケイ等の常緑広葉樹、コゲラやヤマガラ等の鳥類、ツマグロハナカミキリやクマゼミ、アミダテントウ等の昆虫類などが見られ、樹林環境を特徴づける種が生育・生息しています。²



コゲラ



ヤマガラ

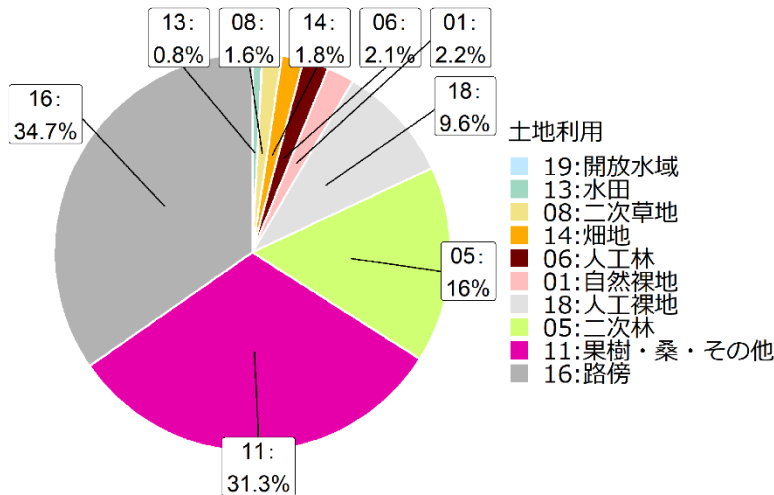


アミダテントウ

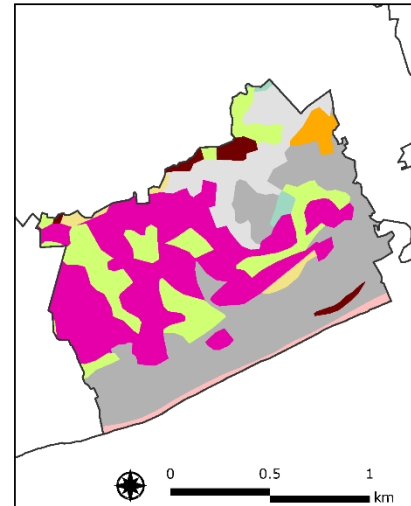
¹ 参考：平成 29 年度 小田原市自然環境等現況調査委託業務 文献調査結果

² 参考：平成 30 年（2018 年）～平成 31 年（2019 年）に実施した現地調査結果

- 植生図をもとに作成された土地利用を見ると、南部は主に路傍が広がり、土地利用の約 3.5 割を占めています。南側で相模湾に面する海岸部は自然裸地に分類され、一部で人工林が見られます。中央部から北部にかけては果樹園や二次林が混在し、里地里山環境が約 5 割を占めています。北東部では、人工裸地や人工林、畑地が見られます。³



前羽地区の土地利用割合



前羽地区の土地利用

【暮らしと自然のつながり（生態系サービス）】

自然体験・観察の場や身近にある緑、食の供給、生活環境の調整など、日々の生活の中で自然環境からの恩恵を受けています。

～文化的つながり～

- **自然体験・観察の場**：西湘テクノパーク内に、「羽根尾史跡公園」があります。羽根尾貝塚は、今から 5350～5750 年前の縄文時代前期の貝塚と泥炭層からなる遺跡です。この貝塚は水分と有機質を含む泥炭層と呼ばれる土の中に形成されており、通常の遺跡では腐ってしまうような漆塗りの木製容器などが良好な状態で出土されました。羽根尾横穴墓群は約 160 基あります。既に開口されたものが多く、遺物は土師器など少数ですが、7 世紀から奈良・平安時代のものもあるといわれ、こゆるぎに展示されています。⁴
- **自然体験・観察の場**：南側で相模湾に面する海岸では、伊豆半島や三浦・房総半島を見渡しながら海辺の散策が楽しめる他、釣り場としても利用され、レクリエーションの場として活用されています。
- **神社・寺院**：神社や寺院が複数あります。社寺林は、生活の身近にある緑として住環境の向上や心の安らぎに寄与します。また、一般的に神社・寺院の境内は、こどもの遊び場としても役立ってきました。「近戸神社」の祭典の際には、神輿が海に入りながら約 500m の渡御を行います。また、「近戸神社」は、スタジイやタブノキなどの林やヤブニッケイやクスノキの大木、モクレイシヤやブツバキ等の低木、キチジョウソウなどの下草類等の暖帯林の自然植生の観察にも適しています。⁵

³ 出典：日本全国標準土地利用メッシュデータ（国立環境研究所）

⁴ 出典：地域別計画 市民の力・地域の力（小田原市，平成 23 年（2011 年））

⁵ 出典：小田原の自然（小田原市教育研究所，平成 9 年（1997 年））

◆「近戸神社」

旧前川村の鎮守で、地元では「近戸さん」と呼ばれ親しまれています。例大祭では、宮出しされた神輿は御旅所を通り海に入り、氏子地域を渡御し、宮入りとなります。⁶宮入りの時は地区住民がこぞって沿道に出て、大変な賑わいとなります。⁷

～食のつながり～

- **果樹**：北西部を中心にミカン畑などの果樹園が広がり、食を供給しています。
- **桜花**：桜の花びらを塩で漬け込んだ「桜花漬け」とは、結婚式などの祝膳に出す桜湯、吸い物や製菓などでよく目にするものです。桜花漬けには、八重桜の「関山（かんざん）」という品種が主に使われます。この関山は、小田原市東部の橘地区から北隣の中井町や秦野市千村地区一帯で栽培され、全国の80～90%が小田原で生産されており、隠れた日本一の産地となっています。小田原は梅干しの名産地でもあるので、梅干しを作るときにできる白梅酢を使って「桜花漬け」が作られるようになったと言われています。日本人に古来から愛されてきた梅と桜。小田原では、鑑賞として愛でるだけでなく、梅干しや桜花漬けとして「食」生活にも見事に無駄なく生かされています。⁸

～生活環境とのつながり～

- **防災・減災**：国道1号線沿いの海岸線の一部には松並木が残っています。海岸線沿いの松並木は、海岸沿いの街並みを作るとともに、一般的に防砂・防潮の役割を持つと言われています。
- **土壌の調整**：樹木や草などの植物には、根により土壌を保持する機能があります。土壌に含まれる栄養塩類は河川へ流入し、植物プランクトンのエネルギー源となりますが、過剰に供給されると水質悪化につながります。植物の根が保持する土壌により、河川へ流入する栄養塩類の量を調整することができます。土壌による栄養塩類（リン酸）の維持量を評価⁹すると、市内で2位となります。

【地区で見られる特徴的な自然】

- **巨樹・巨木林**：「近戸神社」のクスノキは、環境省が実施する自然環境保全基礎調査の巨樹・巨木林調査¹⁰で、保全すべき巨樹・巨木林に選定されています。

巨樹・巨木林概要

所在地	樹種	樹高(m)	樹幹(cm)	調査年
近戸神社	クスノキ	28	580	平成12年（2000年）

※出典：第6回自然環境保全基礎調査 巨樹・巨木林フォローアップ調査報告書（環境省自然環境局生物多様性センター、平成13年（2001年））

- **天然記念物**：「近戸神社」の社叢木は、天然記念物に指定されています。

⁶ 出典：小田原の祭り（小田原祭禮研究会、平成16年（2004年））をもとに作成

⁷ 出典：小田原自治会総連会 HP <https://odawara-jichisoren.net/section/hayakawa/>

⁸ 出典：オダワラボ HP を参考に作成 <http://odawalab.com/report/oukaduke.html>

⁹ 出典：環境省(2016) Japan Biodiversity Outlook 2. <http://www.biodic.go.jp/biodiversity/activity/policy/index.html>

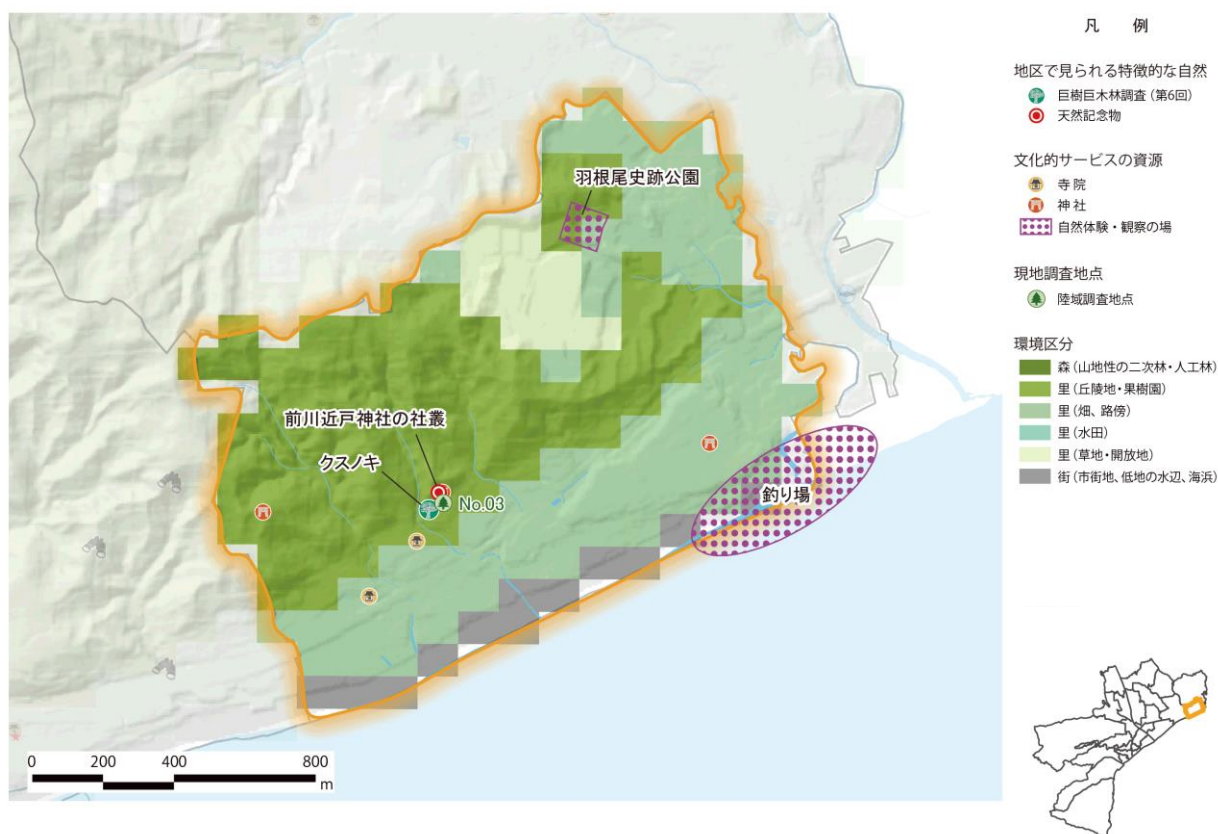
¹⁰ 巨樹・巨木林調査：巨樹・巨木林は、わが国の森林・樹木の象徴的存在であり、良好な景観の形成や野生動物の生息環境、地域のシンボルとして人々の心のよりどころとなるなど、保全すべき自然として重要である、として、その全国的な実態を把握することを目的に実施されている調査

天然記念物概要

名称	指定	指定年月日	所在地	概説
前川近戸神社の社叢	市	昭和51年（1976年） 3月3日	近戸神社	<p>海に近い丘陵地南側の比較的急傾斜地にあり、温暖帯性や沿岸性の常緑広葉樹が多く自生していて、照葉樹の自然林としては、この地方の代表的な社叢で、県下でも数が少なく貴重な存在。</p> <p>社叢を構成する主要な樹木は、次のとおり。</p> <p><広葉常緑樹> クスノキ、タブノキ、ヤブニッケイ、シロダモ、ヒメコズリハ、モッコク、モチノキ、アラカシ、スダジイなど</p> <p><広葉落葉樹> ケヤキ、ノダフジ、イヌビワ、タラノキなど</p> <p><常緑針葉樹> イヌマキ、モミ、スギ、ナギなど</p> <p>草本層にはヤブラン、エビネ、ヤブコウジ、アリドオシ、イタチヒダ、ベニシダ、ホシダなどが多数生育。</p> <p>また、モクレイシやツバキも見られ、クスノキ、モッコク、モチノキはそれぞれ市内最大級の古木。</p>

※出典：小田原市 HP「天然記念物」をもとに作成 <http://www.city.odawara.kanagawa.jp/field/lifelong/property/cultural/natural/>

- **重要地点**：平成 29 年（2017 年）～30 年（2018 年）に実施した自然環境調査結果の評価・分析を行ったところ、現地調査結果を踏まえ、多様性が高いと評価された現地調査地点「**陸域 No.3（近戸神社とその周辺）**」を将来に渡り守っていくべき重要地点として選定しました。



前羽地区の自然環境マップ